復興まちづくりの進捗についての説明会を開催しました

市では、豪雨災害で被災した地域の復興に向けて開催した地区別懇談会などで出された住民の皆さんの意見を「復興まちづくり計画」として取りまとめ、復興まちづくりを進めています。その進み具合の説明と意見交換を行うため、「重点地区※」を含む校区単位で、11月26日・27日・29日に説明会を開催しました。

※重点地区とは、町・字・集落単位で同じような被害状況や課題を抱える行政区をひとまとまりの地区として設定したもので、中心市街地地区、青井地区、麓・老神地区、球磨川左岸地区、薩摩瀬地区、温泉下林地区、中神地区、大柿地区の8つを指す。

松岡市長があいさつした後、市復興支援課から現時点の復旧状況や対象地区の復興まちづくりの進み具合を説明。その後、市道路河川課から市全体の避難路整備の今後のスケジュールを示しました。

意見交換では、参加者から「水災保険にすでに加入している場合、更新のタイミングで水災補償加入促進助成金を受けることはできるのか」、「中川原公園には駐車場やトイレを確保してほしい」、「避難路整備の計画について住民向け説明会を開催してほしい」など、質問や意見が出されました。

今後も復興まちづくりの進捗に応じて情報発信を行っていきます。



▲人吉東小、中原小、人吉西小、市役所の4会場で開催



▲説明会の冒頭であいさつする松岡市長



▲意見を発表する参加者



▲水災補償加入促進助成金の案内や、防災ラジオやSNSといった市の防災・避難情報の入手方法一覧などはチラシにして配布

当日の説明資料は、市役所1階ロビーと市復興支援課（市役所3階3－2番窓口）で配布しています。市ホームページからもご覧いただけます。

▲市ホームページ

問合せ　市復興支援課まちづくり推進係（☎２２－２１１１　内線３１１６）

「公衆温泉新温泉」と「街蔵（石倉・麹室）」が国の登録有形文化財へ

令和4年11月18日に開催された国の文化審議会で、紺屋町にある公衆温泉新温泉と街蔵石倉（旧緑屋石倉）、街蔵麹室（旧緑屋麹室棟）を新たに国の登録有形文化財（建造物）として登録するよう文部科学大臣に答申がありました。県内の公衆温泉の登録は新温泉が初めて。今後は国の告示を経て、正式に登録される予定です。

本市の登録有形文化財（建造物）は、今回を含めて21件です。

問合せ　市文化課文化政策係（☎２２－２１１１　内線６７０１）

公衆温泉新温泉



◀正面の庇（ひさし）も特徴の一つ
▼被災前の浴場の様子。ガラス戸を多く用いた明るい空間



建築年代　昭和6年ごろ

特徴など　建物入り口が男女で分かれていて、内部に番台を置き、脱衣所と浴場を田の字型に配置するという大正から昭和にかけて立ち並んだ公衆温泉浴場の典型的な造り。ほぼ創建当時の姿で残っている。令和2年7月豪雨で被災し、現在は閉業中。

街蔵石倉（旧緑屋石倉）

建築年代　明治35年ごろ建築
昭和16年ごろ移築

特徴など　みそ、しょうゆの醸造元である緑屋本店がみそ醸造や原材料の保管に使っていた。明治から昭和にかけて、人吉球磨地域で数多く建築された石倉で、建築様式や構造を知る手掛かりとなる建造物として貴重。

▶現在は、麹室と共にイベントスペースとして活用されている
▼北側外観





街蔵麹室（旧緑屋麹室棟）

建築年代　昭和16年ごろ建築
昭和41年改修

特徴など　昭和58年までみそ醸造の麹室として使用され、その後隣接する石倉と共に貸し倉庫に。みそ造りの景観を伝え、時代の流れに応じた建造物の使われ方を伝えるものとして貴重。

▶写真右側は軽量鉄骨造りに改築されているが、左側は創建当時の姿を残す
▼西側外観



